

新婦人は、「ハザードマップでのおしゃべり、防災カフェやウォッチングで、避難所の耐震・備蓄、避難路、避難訓練や防災教育など心配なことを出しあい、自治体へ要望しましょう」(第27回全国大会議案)の方針で活動を広げています。

班や支部でとりまわっている「防災カフェ」「防災ウォッチング」について紹介します。

### ●広島・安佐南支部 「防災カフェ」(10/3) →30人参加(うち男性9人)

学習:広島市復興ビジョンの内容と課題  
(講師・安佐南革新懇事務局長) 抜粋

◇市がすすめる「復興まちづくりビジョン」は、

市民の暮らしを守るか?

◇2014.8. 20土砂災害で死亡74人、関連死1人(広島土砂災害危険箇所は全国最多3万1987) →土砂災害防止法の改正

◇八木・緑井地区の4つの課題

土石流から安全確保、避難路の確保、広域避難所、雨水排水の処理

\*被災地には、市が計画している広域避難道路より生活避難路が必要。

市は説明不足→費用46億円もかかる道路が上下のコミュニティを分断、立ち退き家屋約280軒

◇災害便乗の大型公共事業ではないか?

暮らしを守る視点があるの?

全国からの「義援金」を税金のように市が

参加者の声～アンケートから

- 「復興まちづくりビジョンは出されたが、具体的なことはわからない」。講師の話に市民として何も知らされない不安を感じた。話を聞かなかったら、それもわからなかった!
- 勉強になった。砂防ダムを造っても危ないと聞き、すごく怖い。安全な避難場所をつくってほしい。
- このようなカフェを度々もってほしい。生活復興の道筋をもち、因果関係から見える検証の中身を大事にしたい。
- 道が狭く土砂災害以外の地震、火災の時も避難が難しい。
- 行き止まりの道をなくし、道幅も水路も広くし、直角にぶつかる所をなくし、水が流れるように、溢れないようにしてほしい。市民の安全を最優先に道や水路をつくってほしい。
- 一部損壊(床上浸水)したが、貯金を崩し家を建て直し、

#### 復興は生活再建優先に!

安佐南支部は、支部支部委員&班長会での「復興まちづくりビジョン」(広島市)の学習がきっかけで、多くの人に知らせたいと防災カフェを計画。やってみて、しゃべりたい思いがたくさんあることがわかった。私たちが希望する復興は、生活再建、安全な避難路、避難場所…。学びながら、いろいろな人の思いも出し合い、考えていく事が大事。11月も防災カフェを開く予定。

### ●東京・葛飾支部かたくり班

#### ハザードマップで防災ウォッチング!

班委員会で洪水ハザードマップを使いおしゃべりしました。

「日ごろ自治会がやっているけれど、防災をもっと身近にしたい」「ハザードマップの見方が難しい。災害の時、どうしたらいいの?」などの声が…。

↓

ハザードマップを持って4人で防災ウォッチング  
〈わかったこと〉

・このままのんびりしてはいられない。防災公園(都立水元公園)など、とても役にたちそうもないと、わかった。

・避難所の都立公園は安全なの? 歩いていると、土から水が出てくる→区へ要望することに。

・近くの貯水タンクの鍵は誰が持っているの? →区に聞くことにした。

↓

区の出前講座を計画しています(11月)

#### ハザードマップチェック

- ①地図の範囲 地形や河川、道路、住宅、公共施設などが判断できる範囲か。
- ②記載事項 表示内容を理解できるか。危険区域、浸水深など、危険が発生する条件がどのような場合かわかるか
- ③実際に歩く 自宅や勤務先などから避難所への道をさまざまな状況を想定して歩く。段差の有無、夜間や停電時、雨や地震後などに安全に非難できるか
- ④状況把握方法 自治体の避難勧告、避難指示はどのような場合に発せられるか、住民への伝達方法は? それをどう受け取るか。防災行政無線の内容は聞こえるか。
- ⑤災害種類の違い 地震・洪水・土砂災害と地域によって数種類のハザードマップがある。災害の種類によって、避難経路が違うかどうか。

中村八郎さん(NPO 法人「くらしの安全安心サポーター」)提供